

2025 年 9 月 7 日に京都大学医学部付属病院先端医療研究
開発機構臨床研究推進部が主催する「臨床研究・治験従事者
研修」を受けてきました。令和 7 年度 厚生労働省 臨床研究
総合促進事業である臨床研究・治験従事者等に対する研修プ
ログラムの一環です。

なんのこっちゃ??? はい、主任部長も参加を申し込ん
では見たものの、大丈夫だろうかとかなり悩みました。主任
部長のまわりで今までこの研修に参加したという先輩を、見
たことも聞いたこともありません。少人数のワークショップ
形式での実践的な研修プログラムと案内には書いてありま
す。臨床研究に関わる医師を対象としており、質の高い臨床
研究を実施できる人材を養成することを目的としているそ
うです。主任部長、これまで臨床研究に何度か担当医師とし
て関わってきました。臨床研究の何となくの流れだったり、
データのお決まりの統計解析の手法だったりを知っていま
すが、質の高い臨床研究を責任担当医師として完遂できる実
力があるか？と言われれば、ないと思います。何年も前から
ずっとこのような臨床研修を求めていたんです。

令和7年度 厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」

臨床研究・治験に関わる医師・歯科医師を対象とした研修会を開催します。
国内における質の高い臨床研究を実施できる人材を養成することを目的とし、
ワークショップを含めた実践的な研修プログラムを実施します。

アプリ開発などの仮想事例を用いて
統計やPMDA相談について
考えてみよう!

臨床研究・ 治験従事者研修

●日時・会場 2025年9月7日(日)
12:30~17:00(12:00開場)
京都大学医学部附属病院
先端医療機器開発・臨床研究センター
(〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54)

●対象・人数 医療機関において臨床研究・治験に係る業務を
行なっている、もしくは今後行なう予定があり、
今後も継続して臨床研究・治験業務を遂行できる
医師・歯科医師
※本研修は、臨床研究中核病院以外の医師・歯科医師を
優先的に対象とします。
30名程度

●申込方法等 締切:8月29日(金)
下記URLまたはQRコードより詳細をご確認の上、お申込みください。
先端医療研究開発機構 HP > 研修・セミナー > 臨床研究・治験従事者研修 / チュートリアル研修
https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/training_and_seminar/training/
※応募者多数の場合は選考に依ります。

●研修費用 無料
(ただし、研修にかかる交通費・宿泊費等は参加者負担)

問合せ先: 京都大学医学部附属病院
先端医療研究開発機構 臨床研究推進部
e-mail: event_iact@kuhp.kyoto-u.ac.jp

事前学習として
eラーニング
(CREDITS)の
受講が必須です

■プログラム(予定)

オリエンテーション
臨床研究に関する事前学習内容の確認と
臨床研究法の改正の概説をします

ワークショップ① 検査の有効性の評価方法
よりよいスクリーニングや診断の方法を研究したいと
思ったことはありませんか?
検査の有効性についての論文を題材に、どのように
有効性の評価をすればよいのか、研究のポイントについて
一緒に考えてみましょう

ワークショップ② 診断ツールの開発プロセス
昨今特に関心の高いプログラム医療機器の一環として、
診断ツールを取り上げ、開発プロセスの中で
PMDA(医薬品医療機器総合機構)への相談は
「いつ」「何を」「どのように」行うべきか、
相談時に必要な資料や情報の整理方法について
具体的に考えてみましょう

京都
発

先端医療技術を世界へ
臨床研究のプラットフォームはいま、ここに



●京都大学は2021年12月に
橋渡し研究支援機関に認定

●京大病院は2017年3月に
臨床研究中核病院に承認

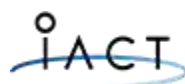
●iACTの特徴…… ●医薬品などの開発から
治験、臨床応用まで、
シームレスな体制を整備

●京都大学ならではの
基礎研究との連携体制を構築

●臨床研究のノウハウに長けた
専門性の高いスタッフが
多数在籍

iACT

京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構
Institute for Advancement of Clinical and
Translational Science
Kyoto University Hospital



京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構
Institute for Advancement of Clinical and Translational Science(iACT)
Kyoto University Hospital

より引用

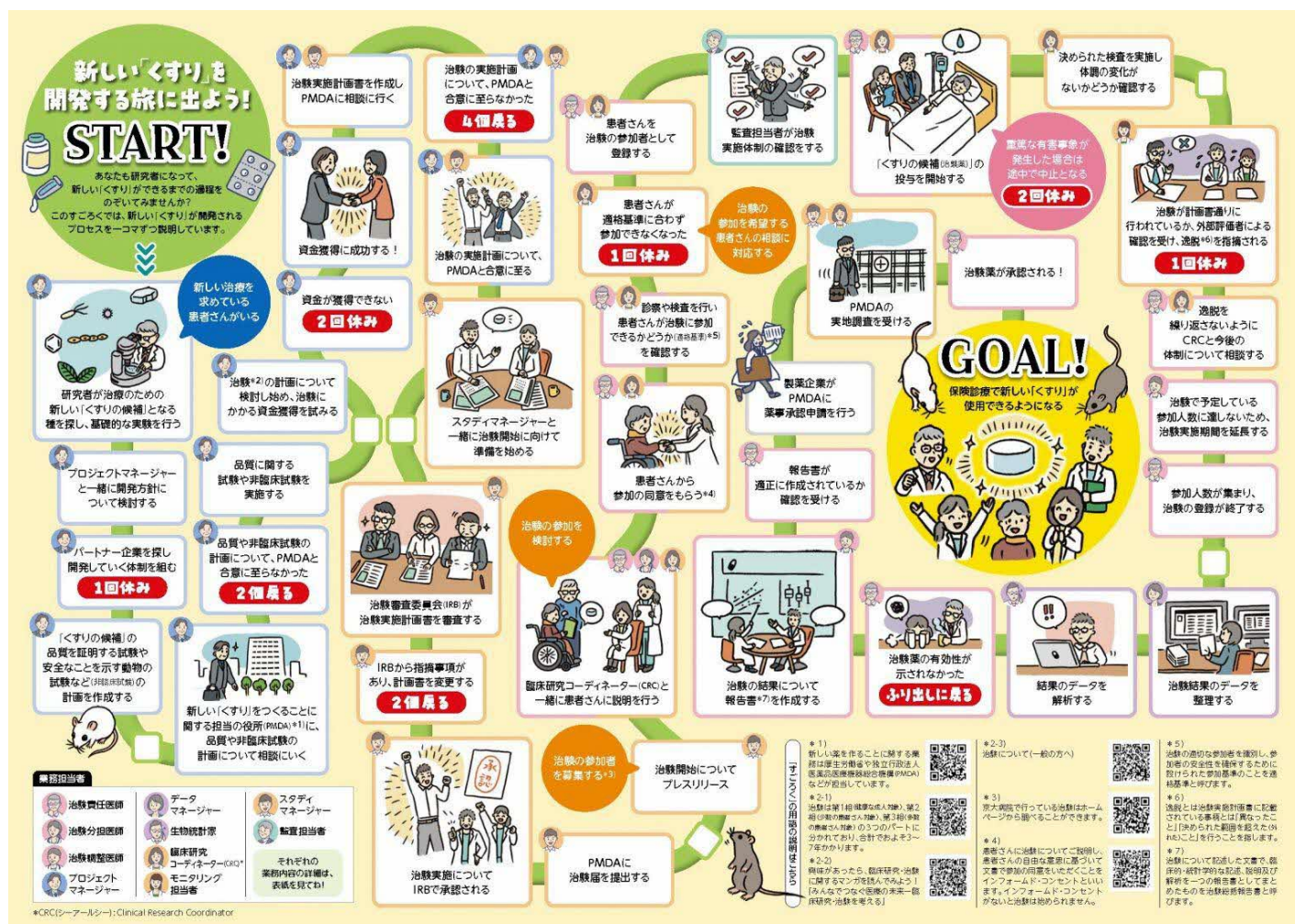
本研修に参加するためには、事前学習として e-learning (CREDITS) の受講が必須です。これが結構な分量でした…。

が、参加するからには最後までやり抜きます。学習後にテストに合格しなければなりません。合格するまで何度も何度も資料を見返します。そしてなんと当日 2 日前にワークショップ対策の事前資料がどーんとメールで届きました。ちらっと見たら青ざめるほどの分量です。「こんなん多分やらんと来る人もおるはずやで。」と自分に言い訳しほったらかしにしていたましたが、気の弱い主任部長です(笑)。結局前日に

パソコンを取り出し、自宅のリビングで予習します。何とか夕食の支度の時間までに学習し終わりました。というわけで、いざ当日！季節外れの最高気温 35 度の中、日傘をさして京都大学に向かいます。

結果として、すごく勉強になりました。臨床研究の基礎的な考え方から始まり、1 グループ 5 人に対して、2 人のファシリテーター（先生兼司会進行役）が付く贅沢な環境で、ワークショップが進行します。ファシリテーターは iACT のスタッフで臨床研究のプロ中のプロの先生方ですから、参加者の様々な意見に対して、すぐさま的確なアドバイスを下さいます。参加者も広く日本中から集まったベテラン医師を中心として、これから大学院へ入って臨床研究をする予定の専攻医さんも少なからずおられました。そして皆さん優秀！初見の課題に対して、どんどん素晴らしい意見が出てきます。「みんな忙しい日常診療の合間を縫って、臨床研究の勉強をしに来はってんな。私も頑張らな。」と勇気と希望を皆さんから頂きました。そして驚きの出会いが！ iACT のスタッフで本研修の責任担当者さんが、主任部長の研修医時代の同期で、

一仕事終えての帰り道、今日の晩御飯のおかずは何にしようかとスーパーに急ぎます。真っ赤な夕焼けに染まった道を歩きながら、“疲れたから出来合いのコロッケにしよう”と心に決めた主任部長なのでした（笑）。



研修の帰りに頂いた臨床研究すごろくマップ（笑）三女と一緒にやりました。iACTのH.P.より引用